

授業科目名	【G】 アクティブラーニング演習(メディアリテラシー編)	区分 選択	開講年次	【G】1	単位数	【G】2
科目区分	基本科目:【G】					
授業形態	対面授業					
担当形態	単 独					
施行規則に定める科目区分又は事項等						
サブタイトル	実践デジタルシティズンシップ			担当者	見崎 浩一	
授業概要	【概要】 インターネットによるメディアの発展によって情報の伝達スピードや方法が変化し、私たちの生活は便利になる一方で、様々な課題も発生しています。ネット時代のメディア利用に関する知識や考え方は、自己防衛だけでなく、より良い生活のためにますます重要となっています。授業ではwebサイトといったメディアを使ったサービスの作成に取り組みながら、過去・現在のメディアとリテラシーに関する事例や知見だけでなく、AIと倫理など今後の社会に求められる最先端の知見を学びます。 具体的には、授業を通して変化し続けるネット情報社会において適切にメディアを使うために必要なリテラシーとはどのようなものであるかを考えます。グループワークやディスカッション、プレゼンテーションなどのアクティブラーニングを取り入れ、学生たちが自ら考察し、意見をまとめ、発信する力も養います。 【実務経験を活かした授業】 新聞社でデジタルメディア運営の経験を持つ教員が、変化し続けるネット情報社会におけるメディアリテラシーを学生たちと考えます。実践的なアクティブラーニングを通じて、学生たちがデジタルメディア社会においても適切に情報を扱えるように支援します。					
	【到達目標】	① デジタルシティズンとして21世紀をしなやかに生き抜くための基礎的な知識を習得し、適切に適用できるようになる。 ② 自分ごととしてメディア環境をしなやかに生き抜くための社会的・情緒的スキルを涵養する。 ③ 情報社会の生活に欠かせないメディアの情報を批判的に受容する力を身につける。				
履修条件	「情報リテラシー」の単位を修得済みであることが望ましい。 「教養演習(メディア論)」も併せて受講すると理解がより深まります。					
アクティブラーニングの方法	【－】 事前学習型	【－】 反転授業	【－】 調査学習	【－】 フィールドワーク		
	【－】 双方向アンケート	【○】 グループワーク	【－】 対話・議論型授業	【－】 ロールプレイ		
	【○】 プレゼンテーション	【－】 模擬授業	【－】 PBL	【－】 その他		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP(ディプロマ・ポリシー)①	－ (当てはまらない)				
	DP(ディプロマ・ポリシー)②	－ (当てはまらない)				
	DP(ディプロマ・ポリシー)③	◎ (よく当てはまる)				
	DP(ディプロマ・ポリシー)④	－ (当てはまらない)				
他科目との関連性	「情報リテラシー」で扱う内容は修得済みであることを前提として授業を実施します。					
教科書	特にありません。					
参考書	坂本旬／山脇岳志(2021年)『メディアリテラシー 吟味思考を育む』時事通信社 山口真一(2022年)『ソーシャルメディア解体新書 フェイクニュース・ネット炎上・情報の偏り』勁草書房					
評価方法	各週の振り返りと学習の成果物(50%)、最終課題での発表(20%)と作成した最終成果物(30%)					
フィードバック方法	Google Classroomを使用し、提出された課題についてのコメント等のフィードバックをします。					
評価基準	授業内容についてよく理解していると判断した学生にはその程度に応じてSまたはA、一部不十分な箇所がある学生についてはBまたはCとします。授業内容への理解自体が不十分な学生については、その程度に応じてDまたはEとします。全欠席など評価不能の場合にはFとします。					

授業 科目名	【G】 アクティブラーニング演習（メディアリテラシー編）	区 分	開講年次	【G】1	単位数	【G】2
		選 択				
授業回数	授業内容					
1	ガイダンス、イントロダクション メディアとリテラシー					
	予習： 授業テーマについてネットや参考書で予習する(60分程度)					復習： 下記「その他」参照
2	メディアとリテラシー					
	予習： 授業で取り上げたキーワード、概念について学習する(60分程度)					復習： 下記「その他」参照
3	AI社会のメディアとリテラシー ① SNSの功罪					
	予習： 授業テーマについてネットや参考書で予習する(60分程度)					復習： 下記「その他」参照
4	AI社会のメディアとリテラシー ② フィルターバブルとエコチェンバー					
	予習： 授業で取り上げたキーワード、概念について学習する(60分程度)					復習： 下記「その他」参照
5	AI社会のメディアとリテラシー ③ フェイクニュース					
	予習： 授業で取り上げたキーワード、概念について学習する(60分程度)					復習： 下記「その他」参照
6	AI社会のメディアとリテラシー ④ ファクトチェック					
	予習： 授業で取り上げたキーワード、概念について学習する(60分程度)					復習： 下記「その他」参照
7	メディアを通じた社会発信 ① 情動知能(非認知能力の一つ)					
	予習： 授業テーマについてネットや参考書で予習する(60分程度)					復習： 下記「その他」参照
8	メディアを通じた社会発信 ② ネット炎上					
	予習： 授業で取り上げたキーワード、概念について学習する(60分程度)					復習： 下記「その他」参照
9	メディアを通じた社会発信 ③ 著作権、肖像権					
	予習： 授業で取り上げたキーワード、概念について学習する(60分程度)					復習： 下記「その他」参照
10	これからのメディアリテラシー ① パーソナライズ					
	予習： 授業テーマについてネットや参考書で予習する(60分程度)					復習： 下記「その他」参照
11	これからのメディアリテラシー ② レジリエンス(非認知能力の一つ)					
	予習： 授業で取り上げたキーワード、概念について学習する(60分程度)					復習： 下記「その他」参照
12	ミニプロジェクト1(メディアを通じた体験のデザイン) デザイン思考					
	予習： ミニプロジェクトのテーマについて複数案考えてくる(60分程度)					復習： 下記「その他」参照
13	ミニプロジェクト2(メディアを通じた体験のデザイン) プロトタイピング					
	予習： ミニプロジェクト完成に向け調整する(60分程度)					復習： 下記「その他」参照
14	ミニプロジェクト3(メディアを通じた体験のデザイン) 体験のデザイン					
	予習： ミニプロジェクト完成に向け調整する(60分程度)					復習： 下記「その他」参照
15	ミニプロジェクト4(発表編)					
	予習： ミニプロジェクト発表に向け最終調整する(60分程度)					復習： 授業内で終了しなかった課題等を実施して提出する(120分程度)
その他	GoogleClassroomやGoogleフォーム等を活用します。 復習方法: 各回ともに、振り返りとして、授業での成果を自己評価する。授業内で終了しなかった課題等を実施して提出する(計120分程度)					